

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。
だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。(マタイによる福音書 6章26節)

保育目標：	0歳児	・保育者に見守られる中で、周りのものや人の動きに興味を持つ。
	1歳児	・保育者と一緒に好きな遊びを楽しむ。
	2歳児	・自分の思いや遊びが大切にされていることを感じる。
	3歳児	・先生や友だちと元気に遊ぶ。
	4歳児	・友だちと遊ぶ楽しさを知る。 ・神様からいただいた身体を大切にする。
	5歳児	・友達と一緒に遊びを工夫する。 ・神様からいただいた身体を大切にする。

暑さと雨を繰り返し、季節の移り変わりを感じる今日この頃です。すぐそこまで梅雨の足音が近づいてきているように感じます。

5月半ば週明けの月曜日、私が出勤してくると職員室の前に一組の親子の姿がありました。「おはようございます。」と声を掛けると、「今日はなかなか子ども園に行きたがらなくて、泣いていて…」との事。お家の方としゃがみ込み、「どうしたの。」とA君の顔を覗いてみました。お家の方が「何が嫌なの？言っていないだよ。」と聞きますが、首を振るばかり。もう一度「給食？お外？」と言い出しやすいように聞きますが、泣いて首を振るばかり。するとお家の方から「少し前も週始め足取りが重くて…」とお話を伺いながら、一呼吸置いて私が「何が嫌か分からない？」と聞いてみると、小さく僅かに頷きました。お家の方と私とで「そうかそうか。そういうことあるよね。」と伝えると共に、「大丈夫だよ、その気持ち分かるよ。大人だって何だか今日は行きたくないなあって思うことあるもの。」と話しました。その後「この時期になって周囲の状況を改めて感じて、不安な気持ちが出ることもありますよね。」とお家の方と言葉を交わしているとA君の気持ちも段々と穏やかになり、私の隣に座り込みました。お家の方に「お仕事の都合もあると思うので、先に弟さんをお部屋に送ってきても大丈夫ですよ。」と伝え、A君と着替えや鞆を整えていると、そっとお家の方が戻ってきました。「少し落ち着いたようなので、もしよければ私このままお預かりしますね。」と伝え、お家の方を見送りました。その後気持ちのエンジンが掛かるまで少し時間が掛かったものの、2階のクラスへ行く頃には気持ちがほぐれA君の一日がスタートしました。

園に到着した時にはトボトボと歩いていたA君が、お家の方に「そうか、そういうことあるよね。」と『何だか気が向かない気持ち』『言葉にならない思い』を心から受け止めてもらった時、「ふっ」と肩の力が抜けたように感じました。それと共に、園までの道のりがA君にとっても、お家の方にとっても、大変だったであろうことを思われ、またA君を（きっと心配な気持ちは山々だったと思いますが）自然な形で私に託して下さったお家の方にも感謝の気持ちでいっぱいになりました。

私たちの生活の中には目に見えるものを信頼しそれを確かな情報として得る事が多くあります。目で見、耳で聞く、手で触れる行為によって得られる情報は確実とも思えます。けれどその情報をどのように理解し、考えていくかは『その人の心』に委ねられているのではないのでしょうか。乳幼児期は10年後20年後生きていくための「心の土台」を養っていく時期にあることをいつも思い保育に携わっています。その内面の育ちに関わる私たちは目に見える情報だけでなく、目に見えないものを見ようと、心を注ぎ応じていくことの大切さを忘れないように心がけています。

「言葉にならない思い」を十分に受け止められたからこそ、次への一步をゆっくりと進めたその日のA君を見て、きっとそのような経験を積み重ねた子どもたちは周囲の物事(人)の表面だけでなく、目に見えない『内面』に思いを向けて関わる人になっていくであろうことを感じました。

6月は花の日礼拝を捧げます。神様の恵みに感謝すると共に、日頃支えてくださる周囲の方に心を寄せて感謝する時が豊かでありますように。

主任 千葉 綾子

